

折込広告のことなら…

お役に立ちます!

毎日新聞名古屋開発株式会社

<http://mainichi-nk.jp>

酒の名は。

瓶子に入った「聖地の酒」を手にする下梶谷歩夢さん(左)と井之口晴稀さん—岐阜県飛騨市の渡辺酒造店で23日、中村幸和撮影



映画舞台の飛騨「聖地の酒」好評

大ヒット中の映画「君の名は。」の舞台モデルになった岐阜県飛騨市にある造り酒屋「渡辺酒造店」の新社員2人が「聖地巡礼に沸く古里をもっと盛り上げたい」と、映画の場面を参考に日本酒「蓬萊 聖地の酒」を考案し、一時は品切れになるほどの人気を集めている。

飛騨市生まれで、今年4月入社の下梶谷歩夢さん(19)と井之口晴稀さん(19)は、公開翌日の8月27日に富山市で一緒に映画を鑑賞した。主人公の高校生の宮水三葉が飛騨弁を話し、地元そっくりの風景に心を動かされた。お米を噛んで吐き出してから自然発酵させた口噛み酒を、もう一人の主人公の立花瀧が口

19歳社員2人が考案「盛り上げたい」



「君の名は。」主人公の三葉(右)と瀧—©2016「君の名は。」製作委員会

にした直後の場面に涙がこぼれそうになった。「口噛み酒が出てきたので、造り酒屋として飛騨を盛り上げた」「聖地巡礼に来た人に楽しんでほしい」と、映画にちなんだ酒の販売を思いついた。

自分たちで考え、「聖地の酒」と名前をつけた。地元産の酒米「ひだほまれ」を原料にした純米吟醸酒で、ふくらみのあるうまみがある。映画に登場する「瓶の3000本は完売寸

前、追加販売を決めた。同社の渡辺隆専務(42)は予想外の人気に驚き、「店頭にこれまで見たことない行列ができた日もあった。2人がファンの目線と感性で商品を開発したところが大きい」と言う。

井之口さんは「聖地の酒を飲んで飛騨を好きになってほしい。入社1年目でいろんな人に喜んでもらえる仕事ができ、やりがいを感じる」と話し、下梶谷さんは「お店に若い人が目立ち、「飲みやすい」と言ってもらえてうれしかった」と喜ぶ。

未成年の2人は2017年5月と9月にそれぞれ20歳を迎え、「誕生日に最初に飲むお酒は、聖地の酒に決めています」と口をそろえる。

【中村幸和】